

11月4日

### 登山シーズンの終わりを迎え パークボランティアが藻琴山登山道のロープを撤去



悪天候の中で作業に励む皆さん

川湯エコミュージアムセンターを拠点として自然保護活動などを行っている摩周・屈斜路パークボランティアの皆さんと環境省は11月4日、藻琴山登山道に設置していたロープの撤去作業を行いました。

本格的な登山シーズンも終わりを迎え、春先に土砂崩れや貴重な植物域を保護するための注意喚起として張った、山頂下の広場や屏風岩周辺のロープを取り外したものです。

山頂には既に積雪があり、この日もみぞれ混じりの強風に見舞われる厳しい寒さの中、ボランティアの皆さんはかじかむ手を懸命に動かしながら、作業を進めていました。

11月1日

### 遊魚による地域振興を目指し 屈斜路湖にニジマスを放流



魚が増えるようにと願いを込めて

町では11月1日、屈斜路湖にニジマスを放流しました。

遊漁振興の一環として、1968(昭和43)年から毎年行っています。

併せて、自然や生命の大切さ、釣りや地域の結びつきについて学んでもらおうと、今年も和琴小学校(森敏隆校長)の児童を招待。総勢約20人が和琴半島で放流を行いました。今年も、翌年にも産卵可能な体長30センチ前後のニジマス約1,400匹を放流。子どもたちは元気なニジマスに歓声を上げていました。

10月23日

### まちの安全を守るために尽力 榎本克己さんに防犯荣誉銅章



表彰状を受け取る榎本克己さん(右)

弟子屈地区防犯協会連合会副会長の榎本克己さん(62歳・川湯温泉5)が、全国防犯協会連合会の防犯荣誉銅章を受章しました。

伝達式は10月23日、役場で行われ、弟子屈地区防犯協会連合会の田中富士男会長から表彰状が手渡されました。

榎本さんは、1985年に川湯防犯協会に入会。1989年には弟子屈地区防犯協会連合会副会長に就任しました。以来、27年の長きにわたりリーダーシップを発揮し、弟子屈・標茶両地区の防犯活動に従事したとして、今回の受章となりました。

## カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかかけます。お気軽にご連絡ください。



企画財政課企画係 ☎482-2913(課直通)

11月9日

### 長年にわたり統計調査に尽力 中村友一さんに道知事感謝状



感謝状を受け取る中村さん(左)

20年以上の長きにわたり統計調査に従事・貢献したとして、泉4の中村友一さん(74歳)に北海道知事感謝状(20年級)が贈られました。

伝達式は11月9日、役場で行われ、徳永町長から中村さんに賞状と副賞が手渡されました。

中村さんは1962(昭和37)年の商業統計調査を皮切りに、現在まで数々の統計調査に従事。その功績により、1973(昭和48)年には知事感謝状(5年級)を、2002年には同(10年級)を受賞しました。また、2007年には経済産業省調査統計部長感謝状、2010年には農林水産大臣表彰を受賞しています。

11月7日

### 陶芸を通して思い出と郷土愛を育む 弟子屈中と川湯中の3年生が摩周焼を体験



森先生(奥)の指導を仰ぎながら

弟子屈中学校(吉田亨校長)と川湯中学校(辻川尚志校長)の3年生72人が11月7日、摩周焼体験学習を行いました。

総合的な学習の一環として毎年行われているもの。郷土を代表する工芸の一つである摩周焼の制作を通して、思い出をつくり、郷土を愛する心を育てることが目的です。摩周焼窯元の森雅子さん(奥春別)を講師に招き、森さんとそのお弟子さんたちの協力のもと、多目的カップ作りに挑戦しました。作品は、12月中旬から公民館で展示される予定です。

10月27日

### 天然ジャム作りに挑戦だ！ 小・中学生向け体験活動「もりのパレット探検隊」



手作りのジャムとパンに夢中

町内の小・中学生を対象とした、川湯エコミュージアムセンター主催の自然体験活動「もりのパレット探検隊」第4回が10月27日、小学生20人が参加して行われました。

今回のテーマは天然ジャム作り。町内で採れたヤマブドウで作ったジャムは、天然そのままの味と甘みを加えた2種類。自分たちでパンも焼き、ボランティアさんが用意してくれたヤマブドウジュースとともに試食しました。子どもたちは「酸っぱいけど、おいしい」と言いながら、味の違うジャムを食べ比べ、ジュースをおかわりするなど、舌で秋を満喫していました。

10月26日

### おじいちゃん・おばあちゃん元気になってね おひさま保育園児が厚生病院を慰問



園児の「よっちょれ」に見入る患者さん

おひさま保育園(清水節子園長)の年長・年中児が10月26日、摩周厚生病院を慰問しました。

この時期に毎年行っています。入院中のお年寄りなどを前に「よっちょれ」と「弟子屈音頭」を元気いっぱい披露した園児たちに、たくさんの拍手が送られました。患者さんは「とてもかわいかった」と、うれしそうに話していました。

11月12日

### ぼくたちの太鼓を聞いてください 昭栄小児童が特養摩周と厚生病院を慰問



勇ましく太鼓を披露する児童

昭栄小学校(奥田泰朗校長)の全児童6人が11月12日、特別養護老人ホーム摩周と摩周厚生病院を慰問しました。

いろいろな世代の方と交流を深め、お年寄りを大切に育む気持ちを育んでほしいと行ったものです。入所者や入院しているお年寄りに、児童が地域の方と一緒に取り組んでいる郷土芸能「摩周蝦夷太鼓」の演奏を披露しました。また、学校のビニールハウスで育てたサツマイモをプレゼントしたほか、お年寄り一人一人と握手をし、言葉を交わして交流。お年寄りの皆さんは目を細めて喜んでいました。

11月11日

### たくさんの人に安全に散策を楽しんでほしい つつじヶ原自然探勝路を整備



手分けして丁寧に作業

環境省・川湯自然保護官事務所は11月11日、阿寒国立公園川湯地域運営協会、自然公園財団川湯支部、摩周・屈斜路パークボランティアなどの協力を得て、川湯温泉街から硫黄山麓へと伸びている「つつじヶ原自然探勝路」の整備を行いました。

道をふさぐようにイソツツジなどが繁茂していたため、生育状況を見極めた上で刈り取り、搬出しました。作業後、中原一成自然保護官は「地域の皆さんと一緒に歩いて歩きやすい探勝路にすることができ感謝している。川湯の誇る日本最大のつつじヶ原を満喫しに、ぜひ足を運んでほしい」と話していました。

10月31日

### 騒音など身近な環境問題を学ぶ 川湯中で環境科学センターによる環境学習



楽器を使いながら音を考える生徒

町と道立総合研究機構環境科学センター主催の環境学習会が10月31日、川湯中学校(辻川尚志校長)で行われました。

昨年に引き続いての開催です。今年は「音」がテーマ。周波数や音の大きさなど、音とは何かという話と、音に関する環境問題として騒音についての説明がありました。生徒は、騒音とは感覚公害であることと、その対処方法を学び、環境問題についての認識を新たにしていました。

10月28日

### 住宅用火災警報器を設置しよう 火の用心パークゴルフ大会を開催



熱戦が繰り広げられた大会(上)・表彰式(下)

第10回火の用心パークゴルフ大会が10月28日、鈿別河川敷パークゴルフ場で開催されました。

秋の火災予防運動の一環として開催されたもので、58人が参加。スポーツを通じて防火意識の向上を図りました。

大会結果は次のとおりです。(敬称略)  
▶男子の部▷優勝/大塚義昭▷準優勝/藤林光一  
▶女子の部▷優勝/酒井繁子▷準優勝/樋口明美

## カメラスケッチ

# 広報マンが行く!!



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかかけつけます。お気軽にご連絡ください。

企画財政課企画係 ☎482-2913 (課直通)

11月17日

### 実験や制作を通して科学の楽しさに触れる 科学であそぼ おもしろ実験室



星座ディスプレイの制作に取り組み子どもたち

北海道電力弟子屈営業所主催の「科学であそぼ『おもしろ実験室』」が11月17日、公民館で開催されました。

子どもたちに科学の楽しさを知ってもらおうと毎年開催されているもので、今回は14人が参加。光の性質について学んだ後、光ファイバーを使って色が変わる星座ディスプレイの制作に挑戦しました。七色に輝く星座ディスプレイに、子どもたちは歓声を上げていました。

11月17日

### 楽しいスポーツで交流と防犯意識深める ジュニア防犯王争奪選手権を開催



スポーツチャンバラで汗を流す

弟子屈地区防犯協会連合会主催の第3回ジュニア防犯王争奪選手権大会が11月17日、摩周観光文化センターで開催されました。

軽スポーツなどや防犯に関する種目などを通して、子どもたちが交流を深めるとともに、防犯意識を高めてもらうことが目的です。今回は、弟子屈・標茶両町から約150人の小・中学生が参加。ドッジビーやスポーツ吹き矢、大声コンテスト、スポーツチャンバラなどを楽しみました。

11月19日

### より自然に近い形での登山道整備を学ぶ 摩周西別登山道技術講習会で知識深める



実践を交えながら講習

今年度、摩周湖第1展望台から西別岳山頂までの登山道を整備するために調査、設計を行っている環境省では11月19日、西別小屋で摩周西別登山道技術講習会を開催しました。

利用者の安全を確保しながら、より自然に近い形で整備する近自然登山道工法を学ぶもので、町内外から登山道関係者17人が参加。屋久島の登山道も手掛けた西日本科学技術研究所の福留脩文代表取締役から、工法に関しての考え方や実践例を聞きました。参加者の皆さんも実際に石を積み上げる整備作業を行い、一段と理解を深めたようでした。

11月19日

### 伐採により札友内墓地内の環境を整備 森林組合による社会貢献活動



墓地の支障となっている樹木を伐採

弟子屈町森林組合(山本保紀代表理事組合長)の皆さんが11月19日、札友内墓地の伐採を行いました。

墓地内の樹木が伸びて墓碑にかかり支障が出ていたほか、日差しが遮られることから、墓参りに訪れる方から不安の声が上がっていたところ、同組合が社会貢献活動として伐採を申し出たものです。この日は8人が参加し、重機などを使いながら丁寧に作業を行いました。

11月21・22日

### 和楽器って面白い 弟子屈中学生が音楽の授業で箏(そう)に挑戦



琴友会の皆さんと合奏する生徒

弟子屈中学校(吉田亨校長)の2年生が、音楽の授業で箏の演奏に挑戦しました。

2002年に中学校の音楽で和楽器が必修となったことを受け、日本の伝統音楽や和楽器に触れ、関心を高めてほしいと、生田流琴友会(辻谷武喜代表)の皆さんの協力のもと、毎年行っています。昨年からは1人に1面割り当てられるようになり、より充実した、より楽しい指導が行われています。

この日は、まず初めに箏について学び、その後、同会員の指導を受けながら、箏に触れ「さくらさくら」を演奏しました。

# 全国大会で地域を考える

## 全国エコツアーリズム大会inてしかが

平成20年から始まったてしかがえこまち推進協議会の取り組み。これまでの取り組みから、新たな一歩を踏み出すために「全国エコツアーリズム大会inてしかが」が10月15日から17日までの3日間、弟子屈町内で開かれました。大会には全国各地から延べ約500人が参加。今後の観光の在り方を、本町から全国に発信しました。

全国エコツアーリズム大会inてしかがは10月15日、川湯温泉のホテルでのシンポジウムで幕が閉じました。

「エコツアーリズムによる地域づくり」てしかがスタイルのエコツアーリズムとは「」をテーマに開催された今大会。開会式では、主催者であるてしかがえこまち推進協議会会長の徳永町長があいさつしました。

共催のNPO法人日本エコツアーリズム協会(JES)の愛知和男会長は「当地では、協議会を中心に地元が力を結集する仕組みができていて、大変高い評価をしている。大会を機に、さらに頑張りたい」と、あいさつしました。

また、地元北海道から多田健一郎副知事、来年国際大会開催が決まっている鳥取県から平井伸治知事、環境省の伊藤哲夫自然環境局長らがお祝いに駆けつけました。

開会式に続き、JES副会長で柳ジェイティービー田川博己代表取締役社長の基調講演やトークセッションが行われました。

### てしかがスタイルのエコツアーリズムって?!

トークセッションは「てしかがスタイルのエコツアーリズムって?」をテーマに行われました。JES理事で北海道大学教授の石森秀三さんをファシリテーターに、徳永会長、富田恵同推進協



エコツアーを体験する参加者(上・下とも)

議会エコツアー推進部会員、JES理事で海島遊民くらぶ代表の江崎貴久さん、弟子屈町まちづくりアドバイザーの山田桂一郎さんがパネリストとして、今後の当地域のエコツアーリズムについて討論しました。本町の取り組みについて山田さんは「いろいろな方々が関わり、未来へ向けて住んでよしの町をつくるために、次世代に何ができるかを考えなければならぬ」「江崎さんは「大切なことは地域内での連携だと思う。目的を明確にして、できることは精いっぱいやるのが大切」とアドバイスしました。

### 地元エコツアーを体験

大会2日目の16日は、さわやかな秋晴れ。エクスカッション(現地体験型見学)として、町内で行われているエコツアーが、約70人の参加者のもと開催されました。既に旅行商品として販売されているカヌー、ホーストッキング、エコウォーク、サイクリングなど、多彩なツ



特別講演を行ったC.W.ニコル氏

「仲よくなれる仕組みづくりが必要。それがえこまちではないか。子どもたちが大人になったときに、本町にいい町だと思えるような町にしていかなければ」、徳永会長は「町民みんなが大きな目的を持って取り組むことで、誰もが誇れる町になっていくと思う」などと述べ、それぞれが活発に意見交換しました。

交流会では、町内の料飲店から地元産の食材を使った自慢の料理24品が振る舞われ、大変好評を博しました。また、ステージでは、郷土芸能の川湯ばやしやアイヌ文化のムックリの演奏が披露され、会場を沸かせました。

さらに、てしかがえこまち推進協議会8専門部会の各部長が、昨年度のエコツアーリズム大賞の優秀賞を受賞したこれまでの活動を、先進的な取り組みとして報告しました。

3日目の18日は、前日に行われたエクスカッション報告会が行われました。各コースとも非常に高い評価を受け、今後の地域経済効果も期待されます。4会場に分かれた分科会では、エコツアーリズムに関する議論が行われ、各会場とも活発な意見交換が行われました。

閉会式ではJESの愛知会長が参加者を代表して大会宣言を読み上げ、3日間の大会が閉幕しました。